

光といのち

第123号

—春彼岸—

2020年3月10日発行

発行所

真宗大谷派勝善寺

〒299-2214

千葉県南房総市二部1344

電話 0470-57-2657

FAX 0470-57-2290

メール info@syozenji.or.jp

URL http://syozenji.or.jp/

住職 釋孝昌（井上孝昌）

僧侶が葬式を勤める理由

新聞広告に「無宗教なのに、お葬式にはなぜお坊さんと呼ぶのだろう」とありました。

みなさんは、どう考えますか？
以下は、その応答です。

まず、「無宗教なのに」とありますが、宗教心の無い人はいます。



朝には紅顔ありて
夕べには白骨と
なれる身なり。
蓮如上人

せん。その自覚が無いだけです。次に、葬儀に「お坊さんと呼ば」理由は、僧侶に葬儀を執行してもらい救われてきた歴史があるから、当然のこととしてそれに従うのです。

僧侶

僧侶は、仏教を依り処に生きる人々にその生き方を伝える人です。それが人間にとって真（ほんとう）の幸せであると考えているからです。

仏教

仏教は、縁起の道理を説きます。

人は縁あって生まれ、縁により老い、縁により病となり、縁尽きて死ぬ。縁が尽きれば生きたくても生きられませんし、縁があれば死にたくても死ねません。

この道理に目覚め、「そのとおりでした」と頷いたところに、自己満足とは違う大満足、真（ほんとう）の幸せがあります。

死者の力

私達は自己関心のみに生きていますから、日頃は仏教を説かれても「馬の耳に念仏」です。ところが葬儀となると、無言で横たわる死者が茶毘に付された白骨が、私たちの日常の感覚を一転させます。

「白骨の御文」を拝読すると、「朝には紅顔ありて夕べには白骨となれる身」は自分のことだと、一様に神妙な面持ちをしています。死者に人生の事実を教えられているのです。

それは、当たり前前にしていた人生が輝いた一瞬、仏教に出遇った瞬間でもあります。

葬儀は、死者が縁となり、私たちが仏教に出遇う場です。

春彼岸会のご案内

一日時 三月二十日（金）

春分の日

十時～十一時半

一 内容 法要と法話

白骨の御文

それ、人間の浮生なる相をつらつら観ずるに、おおよそはかなきものは、この世の始中終、まぼろしのごとくなる一期なり。されば、いまだ万歳の人身をうけたりという事をきかず。一生すぎやすし。いまにいたりてたれか百年の形体をたもつべきや。我やさき、人やさき、きようともしらず、あすともしらず、おくれさきだつ人は、もとのしづく、すえの露よりもしげしといえり。されば朝には紅顔ありて夕べには白骨となれる身なり。すでに無常の風きたりぬれば、すなわちふたつのまなこたちまちにとじ、ひとつのいきながくたえぬれば、紅顔むなしく変じて、桃李のよそおいをうしないぬるときは、六親眷属あつまりてなげきかなしめども、更にその甲斐あるべからず。さてしもあるべき事ならねばとて、野外におくりて夜半のけぶりとなしはてぬれば、ただ白骨のみぞのこれり。あわれというも中々おろかなり。されば、人間のはかなき事は、老少不定のさかいなれば、たれの人もはやく後生の一大事を心にかけて、阿弥陀仏をふかくたのみまいらせて、念仏もうすべきものなり。あなかしこ、あなかしこ。

※「御文」は、参列者に向かって拝読しますので、その様子が窺えるのです。

いずれの行もおよびがたき身

九月二十五日に一学年上の親しい先輩が突然亡くなりました。病気ではありません。事故です。駅のホームで電車に巻き込まれました。

私は動揺し、色々な思いがわき起こりました。二ヶ月余経過し、やっとその死を話せるようになりました。私の中でこの問題が消化されたからです。

亡くなる二ヶ月ほど前に飲んだのが、最後になってしまいました。

富山県の寺の三男坊であった彼は、結婚して北海道の寺に養子に入ることが決まったと話していました。「よかったですね」と祝福したんです。十月にそこへ行き僧侶として活動する準備をするのだと話していました。

その後八月にまた飲みたくなって電話で誘ったんです。ところがいつもと違いなぜか暗い。しんどそうな声をしているんです。聞いてみると、まあ体調的にも精神的にも苦しいと。退職した人の仕事までがどつと回されてきて、体調を崩し精神的にもまいってしまったのだそうです。だから静養のために会社を辞めて、ひとまず実家に帰るということでした。その時は「そうですか。お大事に。また飲みましょう」と電話を切ったんです。

九月二十日のことでした。彼から電話がかかってきて、相当しんどそうでした。

実は、私も三年ほど前しんどい時期がありました。偏頭痛はするし、無気力になっってしまった。そんな経験があったから「無理したらダメですよ。ダメなときは、ダメな自分を何とかしようとするから、余計にダメになっていきます。ダメで良いではないですか」と、彼に元気が出ればと思いい色々話しをしました。

そして十月五日でした。友人から突然電話があり、「彼が亡くなった」と。

駅のカメラには、ホームに入ってきた電車に巻き込まれるように跳ねられた彼が映っていたそうです。警察は「自殺ではない」と結論。彼の父親は葬儀の挨拶で「自殺ではなくてよかった」と参列者に話していたそうです。

私は、彼の死を悼むと同時にその事実を受け入れられないまま、「自殺でなくてよかった」という思いがありました。

もしも自殺であったら、自分の一言が原因であるかもしれない。防犯カメラで自殺でないと言われましたけれど、実際のところは解りません。彼は死んでいるんです。自分の一言で殺してしまっただけではないかと不安になる。そんなはずはないとも思う。彼の父親は「自殺でなかった」と思っ

る。それを「よかった。私の所為でなくて」と自分の気持ちの落としどころにする。もしあいつの一言が原因だったと言われたら・・・。そんな思いで、落ち着けない日々が続いていました。

こんなことなかなか言えませんが、聞法の場だから言える。

女性の友人に、亡くなった先輩の婚約者から「今後私は彼の生き様を伝えていきたい」とメールが届いたそうです。

まあ婚約者の方の立場になってみれば、「そういう気持ちも起こるでしょうね」などと、二人で婚約者の心情を思いやりました。

私も彼の死を引きずっていましたが、落ち着けない気持ちを彼女に話して消化したいと思い、「彼の死は悲しいけれど、また会いたいという気持ちもあるけれど、彼の死は成るべくして成ったんだ。彼の死は私に色々なことを考えさせてくれた。勉強させてもらった」と言ったんです。

そうしたら彼女が「勉強という言い方はおかしい」と。気に喰わん。彼の死を冒瀆していると非難しました。

そこで「あなたは、彼の死を今後どう考えていくのですか」と訊ねたんです。

そうしたら「私も婚約者のように彼の生き様を伝えていきたい」と。

酒の勢いもあり「ちよっと待て。それは

いかにも傲慢だ。いつまでそれを続けていくんですかね」と言ってしまった。当然、彼女は怒ります。失敗です！慰め癒やされる世間話なら、それはそれでいいのですから。「そうですね」と頷いておけばよかったです。こういうことは、皆さんにもありませんか？

でも、それは彼の死を消化したことになるのではない。

私達は、予期しなかった事態に遭遇すると、それを解消しようと右往左往する。ところがそれに行き詰まり「いずれの行もおよびがたき身」であると、自力無功と知らされるのです。

質問 「先輩の死が自殺でなくてよかった」と仰いましたが、自殺したのかも知れませんが、先生は自殺でなくてよかったと思いたい。罪悪感から逃れたいのでないですか。

講師 はい。そうです。事実は死んだと言うことです。色々な心が起こってきました。「自殺でなくてよかった」という思いは、これは私のエゴです。心情を整理したいんです。

質問 「よかった」と思う気持ちが変わりませんか。

講師 自分の所為で死んだ。私が自殺に追い込んだという責任が自分に向かなくてよ

かったという「よかった」です。

質問・・・

講師 そういう気持ちが出てくるんです。彼の死を悲しむのと同時に。死というのも本来はシンプルでしょう。シンプルな事実を複雑化していくのが我々は好きなんです。複雑化するのには自分の妄念妄想です。自分の所為とか、そうでなくて良かったとか、いろいろ考えてしまう。妄念妄想に苦しむわけです。それが断ち切られるんです。「アツ、そうか」と。如来に遇うというか、死が浮き彫りになるというか。そして死が消化される。時間の経過と言うこともあるとは思いますが、そこで初めて自分にとって亡くなった先輩の死の意味が知らされたのです。亡くなった事実に対しては、悲しい出来事として私の中にありますけれど、彼にお育てをいただいたなど。有り難うございました。親しい人の死という事実が受けとめられなくて、私達は抵抗しますからね。ところが「アツ、そうか」と。

質問 そのように私もなれますかね。聴聞していけばそういう境地に。

講師 難しいですね。

質問 そういう心がダメなんですかね。

講師 私達が求めるのは、救われる方法ではありません。その努力の延長線上に救いがあるわけではないことになったら、「アツ、そうか」と。

質問 私は考えすぎなんですか？

講師 自分の正直なところを喋ることですね。そうしたら誰かが「あんた、その心の奥に何をもっているんだ」と言いますわ。嫌なことを指摘されたら逃げ場がなくなる。それを指摘されないように喋る。嘘を言うわけではないけどそれを隠す。自分の究極のカードを出さないわけですよ。

仏法聴聞は、自分の究極のカードを出させるためです。

去る十二月八日（日）の第三回勝善寺聞法会での副住職法話の一部を聞き書きしました。今回は『歎異抄』二章をもとにした内容でした。

そこに「ただ念仏して、弥陀にたすけられまいらすべしと、よきひとのおおせをかぶりて、信ずるほかに別の子細なきなり」と親鸞聖人の信仰が表明されています。そしてその理由として「いずれの行もおよびがたき身」だからとあります。

講師は、親しい先輩の死に遭遇し「いずれの行もおよびがたき身」を知らされた。そのことを「勉強」させてくれた先輩は、善知識（仏教に目覚めさせてくれた人）であったと受けとめていきます。先輩の死を「消化」するとは、そういうことでしょう。

新型コロナウイルス

「さのみふかくおどろくまじきことなり」

新型コロナウイルス感染症の拡大により、二月二十七日に政府は小学・中学・高校を春休みまで休校するよう要請しました。また、様々なイベントの中止や延期が報じられ国民挙げて感染の拡大を防ぐようしています。各自、手洗いを励行しマスクを着用し人混みを避け、十分な栄養と睡眠をとり健康管理に努めねばならないことは言うまでもありません。

今、見えないウイルスへの不安から、様々な情報が飛びかっています。

室町時代にも、伝染病により多数の人が亡くなった年がありました。蓮如上人は「当時このごろ、ことのほかに疫癘（えきらい）としてひと死去す。これさらに疫癘によりて死するにはあらず。うまれはじめしよりしてさだまれる定業なり。さのみふかくおどろくまじきことなり。」（この頃、悪い伝染病に罹り死去する人がいるが、人は生まれたときから死ぬことが決まっているのだから、それほどおどろくことではない）と「疫癘の御文」に述べています。

疫癘（伝染病）の原因がわからない時代ですから、次々に人が死んでいく事態は、現在と比べようのないほど不安で、さまざまな疑心暗鬼を生んだことでしょう。これが一番怖く危険なことです。関東大震災の折に「朝鮮人や社会主義者が暴動を起こすとのデマが警察より流布され、多くの朝鮮人・社会主義者が逮捕され、朝鮮人虐殺事件が続発」（『角川日本史辞典』）するなどということがありました。今も根拠の無い情報が人々の不安を煽り、トイレットペーパーが店舗から無くなる事態がすでに起こっています。

蓮如上人は、「不安に惑わされ動揺するな」と警鐘を鳴らし、このような事態であるからこそ、仏教を依り処にせよと説いているのです。

「事実に立て」。「今、出来ることに最善を尽くせ」。「罹患したら、そこで最善を尽くせ」。「大丈夫」と。

勝善寺で親鸞教室

「聖人一流の御文」

4月10日（金）

12時30分～ 受付

13時～16時30分

講師：海法龍先生

参加費 1,000円



花まつり

「生まれた意義と生きる喜び」を教えてくれたお釈迦様の誕生を祝います。

4月5日（日）

13時30分～15時30分

参加費 無料

腕輪数珠作り、紙芝居



「ご予約ください！」

月曜日朝のお勤め 6時15分

3月20日10時 春彼岸会

4月5日13時30分 花まつり

4月10日13時 親鸞教室

5月10日14時 同朋の会

5月21日13時半 中佐久間講

6月4日13時半 組婦人研修会

6月7日9時 八日講十日講

6月14日14時 勝善寺聞法会

6月3日13時 教区同朋大会

6月17日13時 親鸞教室

6月23日 24日 真宗門徒の集い

6月28日8時30分 X合同研修会

6月30日13時 組同朋総会

7月26日14時 同朋の会

8月10日10時 孟蘭盆会

9月22日10時 秋彼岸会

10月未定13時30分 役員会

10月11日14時 同朋の会

10月18日13時30分 世話人総会

11月20日 報恩講 速夜

21日 報恩講 晨朝 日中

※：以外は当寺が会場です。